

関東支社道路管制センターリニューアルオープンについて

関東甲信越地域（1都7県）の高速道路1,345kmを集中管理し、全国最多の道路事象を取扱う『関東支社道路管制センター』を平成28年2月25日にリニューアルオープン致します。

新道路管制センターの特徴は主に①『高い耐震性能と防災機能の強化』、②『情報提供の高度化』、③『管制運用の高度化』の3点で、最新のICTも活用しお客さまのサービスの向上を実現して参ります。

1点目の『高い耐震性と防災機能の強化』とは、全国の高速道路管制センター初の高い耐震基準と床免震構造を組み合わせて採用し、首都直下地震等の大規模災害時にも耐えうる構造にするとともに、ヘリポートや自家発電設備等のライフラインを有した建物を新設しました。また、有事の際においては、他支社との管制機能のバックアップを可能とする監視制御システムを採用したことです。

2点目の『情報提供の高度化』とは、渋滞の伸縮傾向の情報提供や、SAPAの情報ターミナルにおいて複数経路の所要時間を提供するとともに、重要事象の強調表示や一定時間で英語表示に自動切替提供する等の新たな取り組みです。

3点目の『管制運用の高度化』とは、パトロールカーのGPS位置情報と車載カメラ画像や全国最多の道路事象約260件/日をよりわかりやすく表示可能な国内道路管制最大規模の大型ディスプレイ（縦5.5m×横17m）を採用する等により、さらに迅速かつ適切な管制運用を目指すものです。

1. 新管制センターの概要

新しい道路管制センターは、現在の道路管制センターの南側に地上3階建（延床面積 約5,700㎡、3階屋上にヘリポート設置）建屋で新築しており、2階吹き抜けの管制及び施設制御室には、全国の道路管制センター最大規模の大型ディスプレイが設置され、関東エリアの高速道路の膨大な交通状況が一目瞭然に表示可能となり、より迅速かつ的確な管制業務により、24h365日お客様の安全、安心をサポートいたします。



新管制センターの鳥瞰図

2. 新管制センターの特徴

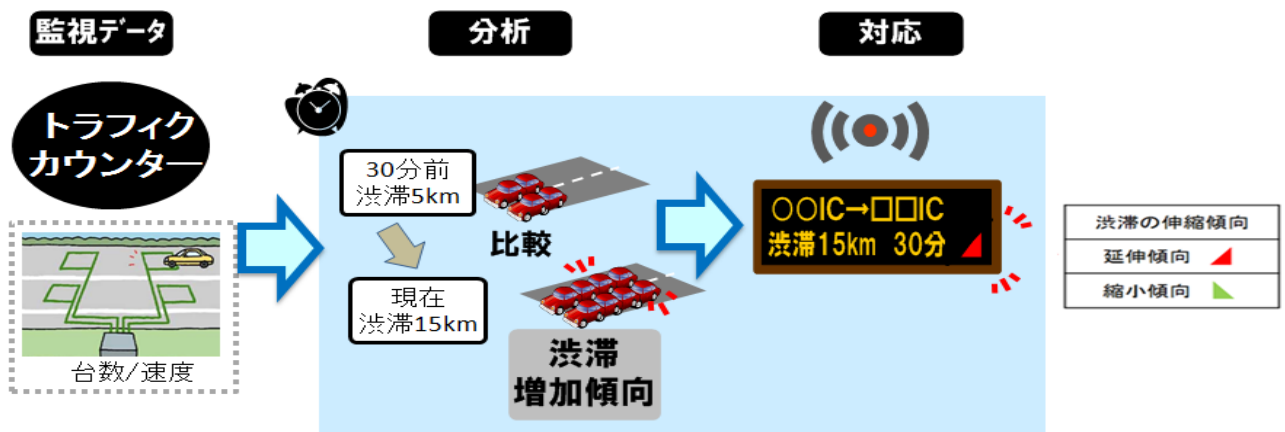
新管制センターの3つの特徴『高い耐震性と防災機能の強化』、『情報提供の高度化』及び『管制運用の高度化』の詳細については下記のとおりです。

(1) 高い耐震性と防災機能の強化

- ① 建物は首都直下地震（M7.3）に対応した、最高水準の耐震基準を採用し、さらに管制室内に床免震及び機器免震を採用^{※1}することで大規模地震時の業務継続を可能
- ② 災害時は支社間の管制バックアップ機能を構築（バックアップ運用開始はH29年春を予定）
- ③ 6.8t級ヘリが離着陸可能な屋上ヘリポートを設置^{※1}
- ④ 災害時のライフライン機能を構築（電力・飲料水は3日分、下水は5日分）
- ⑤ 浸水対策として+1.6mの建物の嵩上げ

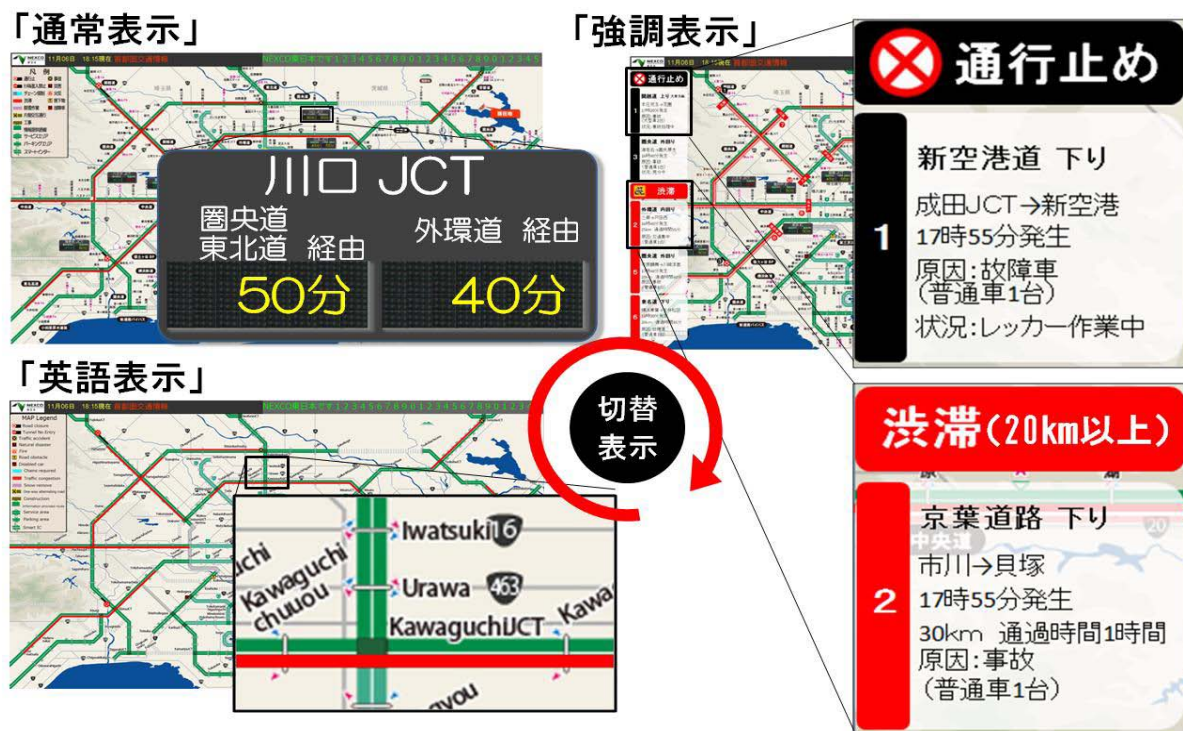
(2) 情報提供の高度化

- ① 渋滞の伸縮傾向（延伸または縮小）を情報板、ハイウェイラジオ及びハイウェイテレホンで提供



渋滞の伸縮傾向表示の仕組み

- ② SA・PAの情報ターミナルで複数経路の所要時間を提供するとともに、重要事象の強調表示、一定時間で英語表示に自動切替提供
- ③ 通行止め時に実施している一斉指令放送の内容を料金所、コンシェルジェ、お客さまセンター他へテキスト配信し、お客さまへ道路情報をよりの確に伝達^{※1}
- ④ ビックデータを活用した情報提供の高度化について検討を推進（今後の取り組み）。



情報ターミナルの表示例

(3) 管制運用の高度化

- ① GPSシステムと車載カメラをパトロールカーに設置し、正確な位置と状況を把握してより迅速かつ的確な対応を実施
- ② 全国最多の260件/日にも及ぶ道路事象全てをよりわかりやすく表示可能な大型ディスプレイ^{※2}を設置しより迅速かつ的確な対応を実施

3. 開所式並びにマスコミ内覧会

本格的な運用に先立ち、報道関係者の方々に公開いたします。新しい道路管制センターと諸設備をご紹介しますので、是非ご参加いただきますようお願いいたします。なお、取材申し込み等については、後日別途ご連絡致します。

日時 平成28年 2月18日(木) 13:30～ 開所式
14:00～ マスコミ内覧会

4. その他

リニューアルオープンについては道路・気象状況等により順延となる可能性があります。

注釈)

- ※1 全国道路管制で初めて採用 ※2 全国道路管制で最大規模

以上

